

## 令和7年度 社会資本総合整備計画 事後評価概要調書

計画とりまとめ課	建設緑政局道路河川整備部道路整備課	要素事業所管課	建設緑政局道路河川整備部道路整備課
----------	-------------------	---------	-------------------

### 1 計画の概要

計画の名称	川崎市内における道路交通の円滑化を促進する道路整備	計画の期間	令和2年度～令和6年度
計画の目標	・川崎市内の拠点間及び近隣都市等とを連絡する道路機能の強化や緊急輸送道路の拡充を図ることを目的とした道路整備を促進する。		
計画の成果目標(定量的指標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>市域交通の骨格をなす緊急輸送道路の整備率を令和2年度の0%（現況値）から令和6年度までに3%（目標値）向上する。</li> <li>混雑時の車両走行速度を令和2年度の0%（現況値）から令和6年度までに3%（目標値）改善する。</li> </ul>		
計画変更を行った場合、変更内容の概要	令和3年度より、個別補助制度「地域連携道路事業費補助」及び社会資本整備総合計画「川崎市内における防災安全を考慮した交通空間の整備（防災・安全）」への移行に伴う要素事業の減。		

### 2 社会資本整備総合交付金を充てた要素事業の進捗状況（概要）

事業の区分	主な事業名	計画事業費		執行額(千円) (評価時)	進捗率 (%)	事業進捗状況の概要
		当初(千円)	評価時(千円)			
A (基幹事業)	・尻手黒川線（IV期） ・宮内新横浜線（子母口） ・（主）幸多摩線ほか	3,146,000	3,146,000	2,810,352	100	バイパスの整備 現道拡幅の整備 橋梁新設の整備
B (関連社会資本整備事業)	—					
C (効果促進事業)	—					
全体事業費（A+B+C）		3,146,000	3,146,000	2,810,352 【財源内訳】 国：1,405,176 県：344,375 市：1,060,801		

### 3 計画に記載した評価指標の目標値の実現状況

評価指標の名称、内容	市域交通の骨格をなす緊急輸送道路の整備			
定義及び算定式	緊急輸送道路の整備率の向上(%) 整備後の緊急輸送道路整備率－整備前の緊急輸送道路整備率			
その指標を設定した理由	本計画の指標は、緊急輸送道路の拡幅整備等によって、災害時の緊急車両や物資輸送車両の更なる安全な通行に寄与していることを表すものであるため			
当初現況値(R2)	中間目標値	最終目標値(R6)	実績値(確定)	目標達成状況
0%	—	3%	2.5%	未達成
目標達成状況に対する所見	関係機関との調整等の難航により事業スケジュールの見直しが必要になったことなどが目標値を下回る要因であったと考える。なお、完成した路線（工区）については、災害発生時に救助活動人員や物資等の円滑な輸送が可能となった。			
将来の見込み	緊急輸送道路の拡充を図ることは引き続き重要であることから、川崎市道路整備プログラムに基づき、更なる道路ネットワークの整備に向け取り組んでいく。			

評価指標の名称、内容	混雑時の車両走行速度の改善			
定義及び算定式	混雑時平均走行速度の改善率(%) ( $(\text{整備後の混雑時平均走行速度} / \text{整備前の混雑時平均走行速度}) - 1) \times 100$ )			
その指標を設定した理由	市内の拠点及び近隣都市を結ぶ幹線道路の整備によって、道路交通を利用した移動に費やす時間が短縮され、市内の経済活動や地域価値の向上に寄与することから、本計画の評価指標として設定			
当初現況値(R2)	中間目標値	最終目標値(R6)	実績値(確定)	目標達成状況
0%	—	3%	6.9%	達成
目標達成状況に対する所見	計画期間内に完成した路線（工区）で車道の幅員が広がったことにより走行性が向上したことや、バス停留所（バスペイ型）の設置により、バス停車時にも後続車両が停車することなく円滑に走行できるようになったことで、混雑が緩和されたことが要因と考える。			
将来の見込み	道路機能の強化を図ることは重要であることから、川崎市道路整備プログラムに基づき、更なる道路ネットワークの整備に向け取り組んでいく。			

#### 4 事業効果の発現状況（計画で設定した以外の数値的・定性的な評価指標によるもの）

評価指標の名称、内容	—
定義及び算定式	—
指標とする理由及び計画において設定した評価指標との関連性	—
評価指標の実績値を含む効果の発現状況	—

#### 5 市民・事業者に対する意見募集・説明・調査の状況

意見募集・説明・調査の内容、手法、実施期間	【事業者意見の聴取】 事業者アンケート調査による施策に関する評価・意見を収集 実施方法：アンケート表を配布し、二次元コード及びメールによる回収を実施 実施期間：令和7年7月14日～8月27日 対象者：一般社団法人神奈川県トラック協会、一般社団法人神奈川県タクシー協会、バス事業者5社（川崎市交通局、川崎鶴見臨港バス株式会社、京浜急行バス株式会社、東急バス株式会社、小田急バス株式会社） 回答数：14件（タクシー協会5件、バス事業者8件、トラック協会1件）
	【市民意見の聴取】 Webアンケート調査による施策に関する評価・意見を収集 実施方法：インターネットリサーチ会社経由にて市内在住登録者に対してWebアンケートを実施 実施期間：令和7年7月15日～16日 対象者：川崎市在住者 回答数：400サンプル
意見募集・説明・調査の結果及びそれを踏まえた対応方針	事業者アンケートでは、道路の整備効果について、「効果を感じている」との回答が一定数得られたものの、半数が「効果を感じない」との回答であったため、事業者の実感につながっていない結果となった。 市民アンケートでは、「どちらとも言えない（変わらない）」を除く回答の中では、「渋滞が少なくなった（やや少なくなった）」の回答が約8割、移動時間が「早くなった（やや早くなかった）」の回答が約7割となつた。 一方で、全体の回答では半数以上（約8割）が「どちらとも言えない（変わらない）」との回答であり、事業効果が市民の実感につながっていない結果となつた。 意見募集の結果、事業の整備効果について市HPや広報誌などを活用し、情報発信していく必要がある。

#### 6 今後の方針等

総合的な所見	緊急輸送道路の整備率については、関係機関との調整等の難航により事業スケジュールの見直しが必要になったことなどにより目標値を下回る結果となったが、計画期間内に道路整備が完了した箇所もあり、災害発生時の緊急輸送の円滑化において一定の効果があった。混雑時の平均速度は、完成（整備）した要素事業によって、平均速度の改善が図られ目標値を達成しており、整備完了に伴う道路交通の円滑化については効果があったといえる。
--------	---

今後の方針	事業者・市民等からの意見では、道路の拡幅など、道路交通の円滑化に向けた道路整備を求める声も多くあり、今後も川崎市内の拠点間および近隣都市等とを連絡する道路機能の強化や緊急輸送道路の拡充を一層図るため、次期計画において継続としている2事業の完成に向け取組を進める。 一方で、事業の整備効果については、実感に繋がっていない課題が判明した。利用者である事業者・市民等の実感に繋がるように、事業内容を含めた整備効果について市HPや広報誌等を用いて情報発信を実施していく。
次期計画 あり・なし	